



第10回ヨーゼフ・ヨアヒム国際ヴァイオリンコンクール予選会会場（2018年10月17日撮影）

教員特別研究（重点目標研究）成果報告書 | 配分研究費：1,310千円（平成30年度～令和元年度）

## 地域振興における国際音楽コンクールの現状と課題

### 目的・概要

静岡県は2つの国際音楽コンクール（「浜松国際ピアノコンクール」と「静岡国際オペラコンクール」）が開催されている。本研究は国内外の類似のコンクールのほか、地域密着型で成功している音楽イベントを調査することで、音楽コンクールが地域振興に果たす可能性を模索し、県内の芸術文化活動に活かすことを目指した。

### 期間

平成30年4月1日～令和2年3月31日

### 研究担当者

文化政策学部	芸術文化学科	准教授	上山典子（研究代表者）
文化政策学部	芸術文化学科	教授	梅田英春
文化政策学部	芸術文化学科	教授	松本茂章
文化政策学部	芸術文化学科	准教授	高島知佐子

## スケジュール

平成30年4月～令和2年3月	国際音楽コンクール/音楽祭に関する情報収集と調査対象選択
平成30年10月	「第10回 ヨーゼフ・ヨアヒム国際ヴァイオリンコンクール」訪問調査
平成31年2月	富山市観光政策課と富山市商工会議所でインタビュー実施
平成31年4月	「第66回 全日本チンドン・コンクール」
令和元年8月	「スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド」訪問調査
令和元年9月	「スコットランド国際ピアノコンクール」事務局訪問調査

## 研究成果

「ヨーゼフ・ヨアヒム国際ヴァイオリンコンクール」の予選会见学と実行委員会の責任者に対するインタビューを行った。音楽界では評価の高いこのコンクールだが、地域社会との結びつきや経済効果という点に関しては決して高い効果は得ておらず、むしろそうした点に対する運営側の期待（そして関心）もほとんどないことが明らかとなり、想像していた以上に閉鎖的なコンクールという印象を得た。また「第10回浜松国際ピアノコンクール」の予選会见学し、ハノーファーとの比較を行った。「スコットランド国際ピアノコンクール」の事務局とグラスゴーの財団を訪問し、資金源、運営体制、市民との関わりなどについてインタビュー調査を行った。その結果このコンクールは、事務局が設置されている王立スコットランド音楽院の教育機関としての存在が非常に大きいことが明らかとなった。国内に関しては、地元の文化、地域経済と密着に結びついた2つの音楽イベントの成功例として、「全日本チンドン・コンクール」（富山市）と、世界音楽フェスティバル「SUKIYAKI Meets the World」（南砺市）を調査対象とし、富山市観光政策課などにてインタビューを実施した。



ヴァイオリンコンクール予選会ロビーの様子



予選会ホールに掲示された出場者たちのプロフィール写真

## 今後の研究成果の 還元方法

当初本研究は2018～2020年度の3年計画で申請していたが、2019年度から3年間の科研費が取得できたため（代表：松本茂章教授）、3年目の申請は行わなかった。したがって、2020年度現在、研究はまだ完了しておらず、当初の計画を遂行するには、少なくともあと1年の期間が必要である。しかしコロナ禍で、調査を予定していた国際コンクールそれ自体が中止や延期になってしまっており、先が見通せない状況にある。例えば、2020年3月に訪問を予定していた「第12回 リスト国際ピアノコンクール」（於ユトレヒト）は同年11月に延期されたが、もし開催されたとしても、訪問調査は実現しない。2019年度に事務局を訪問した「スコットランド国際ピアノコンクール」も今年9月の開催が延期されている。また、2020年11月に開催予定だった「第9回 静岡国際オペラコンクール」も延期が決定している。そこで、本年10月末に行われる学内での教員特別研究成果発表会では、これまで2年間の調査状況と、今後の見込みを報告したい。

2018、19年度それぞれに行った海外の国際コンクール事務局におけるインタビュー調査については2020年度の『静岡文化芸術大学研究紀要』に研究報告を投稿する。（執筆予定者：上山典子・高島知佐子、内容：「ヨーゼフ・ヨアヒム国際ヴァイオリンコンクール」（於ハノーファー）と「スコットランド国際ピアノコンクール」（於グラスゴー）のコンクール実行委員会・事務局におけるインタビュー調査の報告および、2018年度に行われた「第10回 浜松国際ピアノコンクール」との比較。）なお本研究は、昨年度からの科研費補助金を得ながら、2021年度まで継続する。

研究題目：「国際音楽コンクールにおける地域振興の可能性-国内外の比較研究」

種目：基盤研究C、小区分：芸術実践論関係（アートマネジメント）

研究代表者：松本茂章教授 研究分担者：梅田英春教授、高島知佐子准教授、上山典子准教授